

カリキュラムの特色

カリキュラムの特色

心身科学部は、2003年4月から心理学科がスタートし、2004年4月から健康科学科、そして、2008年4月には健康栄養学科が新たに開設され、3学科となりました。

さて、心理学は、人間の心と行動について実証的に研究していく科学です。また、健康科学は、人間のからだや健康について総合的に研究していく科学です。健康栄養学科は、健康をめざした人間栄養学を科学的根拠に基づいて実践的に研究をしていく科学です。心身科学部では、健康の三要素である「栄養」「運動」「休養」を体系的・総合的に学ぶことができるカリキュラム編成となっています。これによって、現実の人間についてより包括的に理解し、かつ援助・指導に役立てようとすることを目指しています。

心理学科では心と行動とのダイナミックな相互作用をトータルに理解・把握することが、人間という存在に貢献する上できわめて有効と考えています。そのために、認知・行動、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、計量の諸領域を中心とした幅広い心理学の教員が授業を開講し、教育指導をしています。

また健康科学科では、超高齢化を迎えた21世紀の日本において最も重要な問題の一つである健康について総合的に学びます。学問は専門に分かれて知識も深まりましたが、健康問題はひとりの人間について考えなければなりません。もう一度、多様な学問を総動員する必要があります。本学科の教員は医師、歯科医師、看護師、運動生理学者、体育教員、養護教諭、言語聴覚士、運動部監督、生化学者など多彩です。机上の空論ではない、現実問題を直視した観点から教育指導が行われますので理解もしやすくなっています。

健康栄養学科では、21世紀の少子・超高齢社会におけるさまざまな健康課題について「栄養」を入り口として科学的に探究するための専門教育科目が幅広く開講されています。また、「食」と健康に関する最先端の専門知識と確かな技術を修得するために、講義科目と演習・実験・実習科目を組み合わせることで理論と実践が一体化した科目構成となっています。さらに、医師や管理栄養士(臨床栄養系、公衆栄養系、栄養教育系、給食経営管理系)の教員による臨床面接試験を組み入れた健康管理総合演習、管理栄養士海外研修などの総合演習科目によって一層実力を高めるカリキュラムが編成されています。

心身科学部の教育上の特色

心理学科の特色

心理学は、人間の心と行動を実証的に研究していく科学です。そのため心理学科では、認知・行動、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、計量などの領域を中心とした幅広い心理学の授業を開講しています。講義だけでなく実験や演習といった少人数の授業によって、心理学的な知識を体験的に習得できるように授業科目を構成しています。

具体的には、1年次に心理学入門や基礎実験演習を通して、早い段階から専門科目に接することができ、学年が進むとともに各自の関心に応じて、自分が進むべき専攻領域を明確にさせていきます。カリキュラムは講義科目の選択の自由度が高いため、特定の分野を深く学ぶことも、いろいろな分野を広く学ぶことも可能です。

最近では、心の問題に関する人格診断論や心理的援助の技法を身につける人格・臨床領域への関心が高まっていますが、本学科ではカウンセラー志望の学生のための基礎訓練の課程が充実しています。もちろんそうした専門職につくことをめざす学生ばかりではなく、さまざまな学生の期待に応えられる内容になっています。

心身科学部の教育上の特色

健康科学科の特色

本学科の教育課程編成の基本方針は、子どもから高齢者まで生涯を通じた心身の健康づくりをトータルに指導できる健康づくり指導者を育成するという具体的教育目標を大前提としています。すなわち、生活習慣病患者およびその予備軍、高齢者など半健康状態の人、また一見、健康状態に見える人が、より高い健康度、より高い活動度、QOL(生活の質)を維持できるように、運動、栄養、こころの健康の各側面からアプローチし、指導できる人材を育成します。

「健康」を科学的視点からとらえ、身体健康(運動・栄養)、こころの健康、環境健康の面から健康づくり、健康増進を達成する方法の探究に努めるだけでなく、その基盤である内分泌代謝学的、分子生物学的メカニズムを遺伝子レベルにまで掘り下げ、検討を加える研究も行います。

情報処理教育も重視し、基礎から応用へと系統的に学習する機会を与え、専門分野の研究や卒業後に健康づくりの実践に携わる際、コンピュータを積極的に活用することができる能力の育成も目指します。

卒業後の進路別に「健康開発科学コース」「スポーツ科学コース」「言語聴覚科学コース」を設け、それぞれ関連する専門展開科目を教育します。

また、保健体育、保健、養護教諭の教員免許、健康運動指導士、言語聴覚士などの各種資格取得に必要な専門選択科目を多く開講します。

健康栄養学科の特色

健康栄養学科では、医療を中心として福祉、介護、保健、教育、健康・食品産業分野などにおいて「食」の専門家として社会に貢献できる栄養士および管理栄養士を基本資格とし、栄養教諭、食品衛生監視員、食品衛生管理者、NR・サプリメントアドバイザー、健康食品管理士などの資格をダブルライセンスとして取得することができます。

本学科は、「食」の専門家として、(1)建学の精神「行学一体」「報恩感謝」に立脚した職業倫理の育成、(2)人間栄養学に基づく最先端の専門知識と確かな技術力の育成、(3)グローバルな視点に立って総合的、複眼的に考え、EBN(Evidence-Based Nutrition)に基づいて問題解決ができる力の育成、(4)人々の質の高い豊かな生活・人生(QOL: Quality of Life)を支援できる力の育成、(5)高度情報化に対応したコミュニケーション力の育成などを目指した教育を行います。

本学科では栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格取得のための専門必修科目に加えて、食と健康にかかわる各種分野で活躍できる人材を育成するための専門科目が数多く開講されています。医療分野で活躍するためには、チーム医療の一員として栄養の立場から病態の改善に貢献できるように、医科学、病理学、臨床栄養学などの科目群を中心に、運動学、心理学、薬学、歯学などの専門領域についても運動療法論、健康スポーツ医学、健康心理学、薬理概論、口腔機能論などで学ぶことができるようになっています。福祉・介護分野では、高齢者のQOLをめざした栄養ケアマネジメントができる能力を養うために、介護概論、口腔機能論、健康心理学などの科目が開講されています。保健分野では、対象のニーズに応じた食生活改善の支援として栄養アセスメント、栄養計画、支援、評価ができる総合的能力を育成するために、健康行動科学、健康スポーツ医学、環境健康医学などの科目を選択することによって、この分野の強化をはかっています。健康・食品産業分野では、食品衛生監視員および食品衛生管理者、NR・サプリメントアドバイザー、健康食品管理士の資格取得のための必修科目に加えて、食品の安全性、嗜好性、機能性など食品に関する幅広い専門的知識と技術力を育成するために、食べ物と健康に関する科目群を中心として食品健康科学論、フードサービス論、フードマーケティング論などが開講されていますので、この分野についてより深く学ぶことができます。

進級・卒業

進級

(1)進級要件

「第3年次への進級に関する内規」(P.154参照)に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した者は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級します。ただし、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2)進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中で3年次へ進級することはできません。

進級可能者は3月中旬にお知らせします。

(3)進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

卒業

(1)卒業要件

大学を卒業するためには、以下の2点を満たさなければなりません。

- ①通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。
 - ②学則第8条に定められている所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者(詳細はP.84～105参照)。
- 注) 4年次修了時点で上記の条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2)学位の授与

卒業要件を充足した者は、学則第37条により学士(心身科学)の学位が授与されます。

(3)卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。いずれの場合も要件を充足した場合は卒業となります。

①3月卒業

4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。
卒業可能者は、3月上旬に保証人宛に通知します。

②9月卒業

4年次春学期時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。
卒業可能者は、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4)卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。
次年度以降の卒業に関する調査を行います。所定の用紙を履修登録期間までに教務課へ提出してください。

カリキュラム概要

心理学科(2013年度以降入学生適用)

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件(36単位)		1年次	2年次	3年次	4年次	
	内訳	分野合計					
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・Ⅱ②				
教養基幹科目		A 20単位 (注2)	教養セミナーⅠ①・Ⅱ①	教養セミナーⅢ①・Ⅳ①			
	人文系		4単位	哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②			
	社会系		4単位	法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、経済学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②			
	自然系		4単位	数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅰ②・Ⅱ②、生物学Ⅰ②・Ⅱ②、情報科学Ⅰ②・Ⅱ②			
	主題系		4単位	仏教と現代社会Ⅰ②・Ⅱ②、禅と人間Ⅰ②・Ⅱ②、生命に関する諸問題Ⅰ②・Ⅱ②、人間行動の理解Ⅰ②・Ⅱ②、人間の尊厳と平等Ⅰ②・Ⅱ②、日本の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、アジアの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、英語圏の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、人間と環境Ⅰ②・Ⅱ②、情報と社会Ⅰ②・Ⅱ②、産業と科学Ⅰ②・Ⅱ②、ソフトウェア概論Ⅰ②・Ⅱ②、健康の科学②			
外国語科目(注1)	第1外国語	6単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb①				
	第2外国語	独・中・仏・韓国語の中から2単位	英語Ⅰc①・Ⅱc①				
	文化事情	独・中・仏・韓国文化事情の中から2単位	ドイツ語Ⅰ①・Ⅱ①、中国語Ⅰ①・Ⅱ①、フランス語Ⅰ①・Ⅱ①、韓国語Ⅰ①・Ⅱ①				
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ①・Ⅱ①				
	◎へ算入		スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①				
外国語科目	エレクトティブ	◎へ算入	【英語】 英会話Ⅰ①・Ⅱ①、メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現Ⅰ①・Ⅱ①、英語読解Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【中国語】 中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【フランス語】 フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【韓国語】 韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
			【英語】 英会話Ⅲ①・Ⅳ①、メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、英語表現Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、ドイツ語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、ドイツ語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】 中国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、中国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、中国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】 フランス語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、フランス語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、フランス語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】 韓国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、韓国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、韓国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①				
海外事情科目	◎へ算入		海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②				
自由選択科目(注6)	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン② ※ サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各② ※ 長期インターンシップ④				

カリキュラム概要

2 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (76単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	12単位	心理学入門Ⅰ②・Ⅱ② 心理統計学Ⅰ②・Ⅱ② 心理学研究法Ⅰ②・Ⅱ②			
専門基幹科目	16単位 演習4単位以上を含む	精神保健学a(精神医学を含む)②・b②、生理学a②・b② スタートアップ心理学a②・b②(注5) 認知心理学a②・b②、行動心理学a②・b②、発達心理学a(生涯発達心理学)②・b②、教育心理学a②・b②、人格心理学a②・b②、臨床心理学a②・b②、社会心理学a②・b②、産業心理学a②・b②、計量心理学a②・b②、宗教心理学a②・b② 認知心理学演習a②・b②、行動心理学演習a②・b②、発達心理学演習a②・b②、教育心理学演習a②・b②、人格心理学演習a②・b②、臨床心理学演習a②・b②、社会心理学演習a②・b②、産業心理学演習a②・b②、計量心理学演習a②・b②、宗教心理学演習a②・b②			
専門展開科目	48単位 ⑥	特殊講義16b(インターンシップ)② 心理学史a②・b②、スポーツ心理学②、心身科学特論② 特殊講義1a～15b各②			
言語聴覚士関連科目A		健康医学入門(医学総論を含む)② 健康医学(内科学を含む)②、リハビリテーション医学②、音声・言語・聴覚系神経医学②、学習認知心理学②、言語学総論・各論②、音声学総論・各論②、音響学・聴覚心理学②、言語発達学②、失語症Ⅰ②、言語発達障害学Ⅰ② 小児科学②、心理測定法②、社会福祉・教育(社会保障制度、リハビリテーション概論及び関係法規を含む)②、失語症Ⅱ②、高次脳機能障害学②、言語発達障害学Ⅱ②、脳性麻痺・学習障害論② 臨床実習⑫			
卒業論文		卒業論文⑧			
実験演習科目	16単位	基礎実験演習Ⅰ②・Ⅱ② 一般実験演習Ⅰ②・Ⅱ② 総合研究演習Ⅰ②・Ⅱ② 総合研究演習Ⅲ②・Ⅳ②			

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 16 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注3) d. 単位互換科目(単位互換A～Z)
------------------	---

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.14を参照してください。
 (注2) 「人文系」「社会系」「自然系」「主題系」で修得した単位の内、必要最低単位数を超えた単位は④→③の順で算入される。
 (注3) 他学部・他学科科目で修得した単位(24単位以内)は、まず◎に算入され、◎の必要単位数を超えた場合には、8単位を上限として⑥に算入される。それを超える単位は卒業要件に算入されない。他学部・他学科科目のうち地域連携科目の詳細についてはP.142・143を参照してください。
 (注4) 「特別支援教育に関する科目」のうち、下表中の16単位まで卒業要件単位に含むことができる(教職課程受講登録者のみ履修可能)。
 (注5) 2012年度以降入学生の科目です。
 (注6) ※は2015年度以降入学生の履修可能(詳細についてはP.142・143を参照)。

分野	単位	1年次	2年次	3年次	4年次
言語聴覚士関連科目B	卒業要件には含まない	解剖学②、生理学②、口腔機能論(臨床歯科医学を含む)②、言語聴覚障害総論② 病理学②、臨床神経学②、形成外科学②、口腔外科学②、音声・言語・聴覚医学(神経系の構造、機能及び病態を含む)②、言語聴覚障害診断学②、発声発語障害学Ⅱ(機能性構音障害総論・各論)②、聴力検査②、言語聴覚学基礎演習②、言語聴覚学総合演習② 耳鼻咽喉学②、発声発語障害学Ⅰ(音声障害)②、発声発語障害学Ⅲ(器質性構音障害総論・各論)②、発声発語障害学Ⅳ(運動障害性構音障害総論・各論)②、嚥下障害総論・各論②、吃音②、聴覚障害・視覚聴覚二重障害(小児聴覚障害、成人聴覚障害を含む)②、補聴器②、人工内耳②、心理診断学演習②、言語聴覚心理評価学②、言語機能評価学演習②、特殊演習1a(コミュニケーション障害学)②、特殊演習1b(コミュニケーション障害学)②、健康科学総合演習②、特殊演習2a(言語聴覚嚥下障害学)②、特殊演習2b(言語聴覚嚥下障害学)②			
特別支援教育に関する科目	16単位まで卒業要件単位に含むことができる	知的障害者の心理②、知的障害者の生理・病理②、肢体不自由者の心理・生理・病理②、病弱者の心理・生理・病理②、知的障害児指導法②、肢体不自由児指導法②、肢体不自由者の自立活動の理論と実際②、病弱児指導法②、視覚障害者の言語障害指導①、聴覚障害者の言語障害指導①、重複障害・軽度発達障害教育総論②			

カリキュラム概要

健康科学科(2015年度以降入学生適用)

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件(24単位)		1年次	2年次	3年次	4年次
	内訳	分野合計				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・Ⅱ②			
教養基幹科目	人文系	20単位 ④	心理学Ⅰ②・Ⅱ②、哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②			
	社会系		法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、経済学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②			
	自然系		数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅰ②・Ⅱ②、生物学Ⅰ②・Ⅱ②、情報科学Ⅰ②・Ⅱ②			
	主題系		仏教と現代社会Ⅰ②・Ⅱ②、禅と人間Ⅰ②・Ⅱ②、生命に関する諸問題Ⅰ②・Ⅱ②、人間行動の理解Ⅰ②・Ⅱ②、人間の尊厳と平等Ⅰ②・Ⅱ②、日本の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、アジアの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、英語圏の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、人間と環境Ⅰ②・Ⅱ②、情報と社会Ⅰ②・Ⅱ②、産業と科学Ⅰ②・Ⅱ②、ソフトウェア概論Ⅰ②・Ⅱ②			
外国語科目	英語	6単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb①、英語Ⅰc①・Ⅱc①			
健康総合科学科目			スポーツ科学Ⅰ①・Ⅱ①			
			スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①			
外国語科目	エレクトティブ		【英語】 英会話Ⅰ①・Ⅱ①、メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現Ⅰ①・Ⅱ①、英語読解Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【中国語】 中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【フランス語】 フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【韓国語】 韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①			
			【英語】 英会話Ⅲ①・Ⅳ①、メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、英語表現Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、ドイツ語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、ドイツ語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】 中国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、中国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、中国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】 フランス語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、フランス語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、フランス語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】 韓国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、韓国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、韓国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①			
海外事情科目			海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
自由選択科目 (注7)	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン② ※ サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各② ※ 長期インターンシップ④			

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 12 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 他学部・他学科科目(注5)
------------------	--

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.39を参照してください。
 (注2) 言語聴覚科学コースを選択したものは、42単位以上必要です。
 (注3) 専門選択科目は、12単位までしか卒業要件に含まれません。まず◎に算入され、◎の必要単位数を超えた場合には、◎に算入される。
 (注4) 専門セミナーを含めて12単位以上必要です(ただし、言語聴覚科学コースは除く)。
 (注5) 他学部・他学科科目で修得した単位(24単位以内)は、まず◎に算入され、◎の必要単位数を超えた場合には、6単位を上限として◎に算入される。6単位を超えた場合には6単位を上限として◎に算入される。それを超える単位は卒業要件に算入されない。他学部・他学科科目のうち地域連携科目の詳細についてはP.142・143を参照してください。
 (注6) ※は言語聴覚科学コースは必修です。
 (注7) ※の詳細についてはP.142・143を参照してください。

カリキュラム概要

② 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 □ = 必修科目

分野	卒業要件 (92単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	12単位	健康医学入門(医学総論を含む)②、健康スポーツ医学入門②、健康脳科学入門②、環境健康医学入門②、健康心理学入門②、プレセミナー②			
専門基幹科目	20単位	解剖学②、生理学②、薬理概論②、口腔機能論(臨床歯科医学を含む)②、体力測定・評価②			
健康開発科学コース	78単位 ⑧	生涯健康論②、栄養生化学②、病理学②、微生物、免疫学②、分子遺伝学②、衛生学・公衆衛生学②、健康統計学②、健康情報と医学②、健康医学(内科学を含む)②、精神医学・精神保健②、健康スポーツ医学②、リハビリテーション医学②、救急・応急処置②、体力測定・評価演習②、学習認知心理学②、生涯発達心理学②、言語学総論・各論②、言語発達学②			
		救急・応急処置演習②、ストレス科学論②、社会福祉・教育(社会保障制度、リハビリテーション概論及び関係法規を含む)②			
		養護概説Ⅰ②・Ⅱ②			
		運動療法論②、遺伝・画像診断学②、臨床心理学②、人格心理学②、心理学研究法②、予防医学②、臨床神経学②、形成外科学②、口腔外科学②、学校保健演習②、小児保健学②			
スポーツ科学コース	40単位 ⑨	健康増進医学②、健康栄養学②、食事療法論②、生活習慣病論②、運動療法演習②、先端医療概論②、喫煙と健康②、長寿科学②、臨床栄養学②、分子生物学②、食物化学(食品学を含む)②、環境健康医学②、小児科学②、耳鼻咽喉学②、看護学②、健康相談(カウンセリング)②、メンタルヘルス②			
		体育原理②、学校保健(学校安全等を含む)②			
言語聴覚科学コース	78単位 ⑩	スポーツ心理学②、運動学(運動方法学を含む)②、運動生理学②、運動栄養学②、スポーツトレーニング論②、スポーツ情報論②、障害者スポーツ論②、生涯学習概論Ⅰ②・Ⅱ②、学習情報の収集と提供②、健康運動指導実技A～C各①、体育指導実技A～C、L各①、レクリエーションスポーツ実習Ⅰ①、スポーツトレーニング演習②、バイオメカニクス②、運動心理学②、スポーツリサーチ演習②、運動生理学演習②			
		体育社会学②、体育経営管理学②、スポーツ指導方法論②、スポーツ文化論②、体育・スポーツ行政学②、海外の生涯教育②、社会心理学②、企業内教育論②、体育指導実技D～K各①、レクリエーションスポーツ論②、レクリエーションスポーツ実習Ⅱ①、レクリエーションスポーツ演習②、スポーツコンディショニング演習②、スポーツプログラミング演習②、健康運動指導演習②、専門指導者実技A(エアロビック)①、スポーツキャリア論②、コーチング演習②			
専門選択科目 (注3)		言語聴覚障害総論②			
専門総合科目 (注6)	2単位	音声・言語・聴覚医学(神経系の構造、機能及び病態を含む)②、音声・言語・聴覚系神経医学②、音声学総論・各論②、音響学・聴覚心理学②、言語聴覚障害診断学②、失語症Ⅰ②、言語発達障害学Ⅰ②、発声発語障害学Ⅱ(機能性構音障害総論・各論)②、聴力検査②、言語聴覚学基礎演習②、言語聴覚学総合演習②			
	14単位 (注4)	心理測定法②、心理診断学演習②、言語聴覚心理評価学②、失語症Ⅱ②、高次脳機能障害学②、言語発達障害学Ⅱ②、脳性麻痺・学習障害論②、発声発語障害学Ⅰ(音声障害)②、発声発語障害学Ⅲ(器質性構音障害総論・各論)②、発声発語障害学Ⅳ(運動障害性構音障害総論・各論)②、嚥下障害総論・各論②、吃音②、聴覚障害・視覚聴覚二重障害(小児聴覚障害・成人聴覚障害を含む)②、補聴器②、人工内耳②、言語機能評価学演習②、特殊演習1a(コミュニケーション障害学)②、特殊演習1b(コミュニケーション障害学)②、特殊演習2a(言語聴覚嚥下障害学)②、特殊演習2b(言語聴覚嚥下障害学)②、特殊演習3a(認知神経心理学)②、特殊演習3b(認知神経心理学)②			
認定心理士 資格取得 関連科目	卒業要件単位に 算入されない		東洋医学概論②、インターネット技術論②、生死論②、介護概論②、介護報酬請求事務演習②、医療事務演習Ⅰ②・Ⅱ②、公費負担医療制度論②、手話②、手話実習②、インターンシップ②		
			心身科学特論②		
		健康科学総合演習②			
		看護演習②、看護実習⑥			
		専門セミナー④ 卒業論文⑧、*臨床実習⑩			
		基礎実験演習Ⅰ②・Ⅱ②			
		認知心理学b②、発達心理学b②			

履修関連事項

カリキュラム

事務取扱い

アドバイザー制度

諸資格の取得

その他

諸規則

カリキュラム概要

健康栄養学科(2013年度以降入学生適用)

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件(24単位)		1年次	2年次	3年次	4年次	
	内訳	分野合計					
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・Ⅱ②				
教養基幹科目	人文系	12単位	心理学Ⅰ②・Ⅱ②、哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②				
	社会系		法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、経済学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②				
	自然系		6単位	化学Ⅰ②、生物学Ⅰ②、情報科学Ⅰ②			
	主題系		6単位	数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅱ②、生物学Ⅱ②、情報科学Ⅱ②			
外国語科目(注1)	英語	6単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb①				
	ドイツ語		英語Ⅰc①・Ⅱc①				
	中国語		ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
	フランス語		中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
	韓国語		フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
			韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①				
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ①・Ⅱ①				
	◎へ算入		スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①				
外国語科目	エレクトティブ	◎へ算入	【英語】英会話Ⅰ①・Ⅱ①、メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現Ⅰ①・Ⅱ①、英語読解Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ①				
			【英語】英会話Ⅲ①・Ⅳ①、メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、英語表現Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】ドイツ語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、ドイツ語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、ドイツ語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】中国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、中国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、中国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】フランス語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、フランス語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、フランス語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】韓国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、韓国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、韓国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①				
海外事情科目	◎へ算入		海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②				
自由選択科目(注5)	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン②				
			※ サービスラーニング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各② ※ 長期インターンシップ④				

2 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 24 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注2)
------------------	---

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.57を参照してください。
 (注2) 他学部・他学科科目で修得した単位の内、24単位まではグレーゾーンに算入される。他学部・他学科科目のうち地域連携科目の詳細についてはP.142・143を参照してください。
 (注3) 栄養士は必修科目です。
 (注4) 管理栄養士は必修科目です。
 (注5) ※は2015年度以降入学生のみ履修可能(詳細についてはP.142・143を参照)。

カリキュラム概要

3 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (80単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	社会・環境と健康 4単位	健康管理概論②		公衆衛生学②	医療福祉概論② 健康心理学② 公衆衛生学実習①
	人体の構造と機能、 疾病の成り立ち 10単位	人体構造学② 生体機能学② 生化学総論② 健康スポーツ医学②	人体構造機能学実験① 生化学各論② 生化学基礎実験① 生化学応用実験① 病理学② 生活習慣病論② 病原微生物学② 医科学Ⅰ(代謝・栄養系等)②	医科学Ⅱ(消化器系等)② 薬理概論②	医科学Ⅲ(その他の疾患)②
	食への物と健康 13単位	食品成分学② 食品機能評価法② 調理学② 調理科学実験① 基礎調理実習① 応用調理実習①	食品機能化学② 食品安全管理学② 食品安全学実験① 食品基礎分析実験法①	食品健康科学論② 食品応用分析実験法①	
専門基礎科目	基礎栄養学 3単位	基礎栄養学②	栄養学実験① 栄養生理学②		
	応用栄養学 5単位		応用栄養学② 母子栄養学② 加齢栄養学②	スポーツ栄養学② 応用栄養学実習①	
	栄養教育論 5単位	栄養教育論②	栄養教育実習① 栄養カウンセリング論② 健康・栄養情報演習① 健康行動科学②	栄養教育各論②	
	臨床栄養学 5単位		臨床栄養学総論② 臨床栄養学各論②	分子栄養学② 栄養アセスメント論② 口腔機能論② 臨床栄養学実習① 運動療法論② 栄養ケアマネジメント論② 臨床栄養管理実験①	介護概論②
	公衆栄養学 2単位		食事調査演習①	公衆栄養学② 公衆栄養活動論② 環境健康医学②	公衆栄養学実習①
	給食経営管理論 4単位		給食経営管理論② フードサービス論②	給食経営管理基礎実習① 給食経営管理応用実習① フードマーケティング論②	
専門発展科目	総合演習	健康栄養学入門①			健康管理総合演習① 管理栄養士総合基礎演習① 管理栄養士総合応用・臨床演習①
	臨地実習 2単位			臨地実習事前事後演習① 校外実習①(注3) 臨地実習④(注4)	
	総合科目 6単位		管理栄養士海外研修②	心身科学特論② 健康栄養総合演習② 卒業研究③	健康栄養学特論① 健康栄養専門セミナー④
	管理栄養士 関連科目	有機化学② 分析化学②		NR・健康食品管理士セミナー②	

履修関連事項

カリキュラム

事務取扱い

アドバイザー制度

諸資格の取得

その他

諸規則

授業科目の概要

教養教育科目(心理学科)

教養教育科目の理念と目標

教養教育では、「学生一人ひとりの人間性を尊重しつつ、豊かな教養と高い品位を兼ね備えた人間の育成を目指す」という理念のもとに、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な価値観と深い洞察力を育成する「リベラル・アーツの修得」を柱として、多彩な科目を開講しています。学生の皆さんが将来豊かな教養を兼ね備えた人材として社会に貢献できることを目指します。

宗教学

「建学の精神」に基づいて、宗教、特に禅・仏教を学びます。そこには「人間の弱さや愚かさ、強さや素晴らしさ」についての豊かな洞察が含まれています。

授業は、共通のテキストを用いた講義が中心ですが、各担当教員は視聴覚教材を活用するなど、独自の工夫を凝らしています。また、年1、2回「坐禅の体験実習」も行います。

この科目を通して「生きること」「信じること」の意味について考えてみましょう。

○宗教学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので4単位を修得する必要があります。

教養基幹科目

教養基幹科目は教養セミナー「学問の発見」と人文系・社会系・自然系・主題系^{注)}の各科目からなっています。人文系・社会系・自然系科目では、専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、そして豊かな人間性の育成を目標としています。総合大学としてのメリットを最大限に生かし、幅広い学問領域をカバーする多彩な科目でカリキュラムを構成すると共に、教養セミナー「学問の発見」での教員との触れ合いを通して、新入生が大学に溶け込みやすいように工夫しています。主題系科目においては、学際的で広い領域の中からテーマを設定し、それぞれの主題について総合的な理解を深めるために複数の教員が担当する授業や、特定のテーマについてより深く掘り下げて学ぶ授業が行われます。

○人文系・社会系・自然系・主題系科目は各分野で4単位ずつ、さらに教養基幹科目全体の中から(教養セミナー含む)4単位、最低でも合計で20単位を修得する必要があります。

注) 2012年度以前入学生については、以下のとおりとします。

教養基幹科目主題系の各科目は、主題科目として開講します。ただし、「健康の科学」は健康総合科学科目の「健康総合論」として開講します。

外国語科目

①第1外国語[英語]

英語は、アメリカ・イギリスなどの英語圏で話されているだけでなく、母語の異なる人たちの間の共通語としても用いられているなど、国際化が進展する今日の社会において、その重要性はますます高まりつつあります。

英語カリキュラムは、現代社会において必要な英語コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としており、コア(必修科目)とエレクトィブ(選択科目)からなっています。

コア(必修科目)

コアにおいては、読む・書く・聴く・話すという4技能の養成を図ります。これら4技能をバランスよく修得することは、すべての語学学習にとって必要不可欠です。

○第1外国語(英語)は、希望したコースに基づいてクラス分けが行われます。

クラス分けの結果とコースは最初の授業までに発表します。

○科目名のアルファベットは以下の内容を表しています。

a - Listening ComprehensionとOral Communication

b - Reading

c - Writing

○英語は必修科目であり、1年次では英語Ⅰa・Ⅰa・Ⅰb・Ⅰb 4単位、2年次では英語Ⅰc・Ⅰc 2単位、合計6単位を修得する必要があります。

○各開講年次で修得できなかった者は、時間割表に(未修得者)と表示されている科目の中から履修してください。

授業科目の概要

教養教育科目(心理学科)

②第2外国語【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】

第2外国語は、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語が開講されています。国際化が叫ばれる中で、多様な世界を知り、それを理解するためには、英語以外の外国語を学習することも大切です。異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を養うために、積極的に第2外国語の学習に取り組んでください。選択必修科目ですので、1年次にドイツ語・中国語・フランス語・韓国語の中から1言語を選択して履修することになります。また、2年次以上ではエレクトティブ(選択科目)を履修することができます。

なお、第2外国語は未修外国語ですので、コアの授業では基礎的な部分の学習に止まらざるを得ません。当該言語の能力をより高めるために、2年次以降にエレクトティブ(選択科目)を履修することが大いに望まれます。

○第2外国語はコア(必修科目)の2単位を修得する必要があります。

○第2外国語のクラスは希望した言語に基づいて編成します。クラス編成上、第1希望にそえない場合があります。

DA～DDクラスはドイツ語、CA～CHクラスは中国語、FA～FDクラスはフランス語、KA～KDクラスは韓国語となっています。

※なお、決定された第2外国語は、変更することができません。

③文化事情【ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情】

第2外国語として学習する、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語、これらの言語の背景にある文化や風俗、人々の生活などについて学ぶ科目です。選択必修科目ですので、ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情の中から1科目を選択して履修してください。半期科目のため、春学期或いは秋学期のいずれかで受講することになります。

なお、できる限り第2外国語で選択した言語の文化事情を履修するようにしてください(例：ドイツ語を選択した場合はドイツ文化事情を履修)。

○学籍番号が奇数の人は春学期に、偶数の人は秋学期に履修してください。

④エレクトティブ(選択外国語科目)

エレクトティブはコアを学習しながら、あるいはコアを学習した後、さらに各技能のレベルを高めるための科目となっており、豊富な教員を用意し、少人数クラスで多種多様な授業を行います。パソコンや視聴覚機器等を使用した科目も開講しています。

健康総合科学科目

健康総合科学では各種スポーツの「実践」と「理論」により、健康の価値と運動の楽しさを体験的に認識することによって健康の自己管理能力を養い、それぞれ各人の能力にあった運動を生涯スポーツとして確立し、広く社会に貢献しうる人材の育成を目的としています。スポーツ科学では「実践」により皆さんができるだけスポーツに親しむことを望んでおり、健康総合論では「理論」によって健康に関する諸問題を医学面、あるいは運動面から総合的にアプローチしていきます。

○スポーツ科学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので、2単位を修得しなければいけません。

○第1週目は授業内容などのガイダンスを行いますので、所定の教室に集合してください。

既往症、現在症などで運動制限をしなければいけない場合	第1週目の授業時に担当教員に必ず申し出る
見学を余儀なくされた場合	担当教員に申し出る (長期に渡る場合は、診断書などを提出)
試合などで休む場合	前もって担当教員に申し出る
天候不順の場合	授業変更は体育館事務室前に掲示

○更衣は体育館更衣室で行い、衣服などの荷物を各競技場に持っていき、各自で管理してください。そのため、貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。

海外事情科目

海外の国に実際に足を踏み入れ、今まで学習してきた外国語を実際に使ってみることによって、新たな経験を積み、視野を広げることになります。

海外事情科目は、本学が行う「海外語学研修」をその内容としています(詳細については、P.77 参照)。

授業科目の概要

教養教育科目(健康科学科)

教養教育科目の理念と目標

教養教育では、「学生一人ひとりの人間性を尊重しつつ、豊かな教養と高い品位を兼ね備えた人間の育成を目指す」という理念のもとに、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な価値観と深い洞察力を育成する「リベラル・アーツの修得」を柱として、多彩な科目を開講しています。学生の皆さんが将来豊かな教養を兼ね備えた人材として社会に貢献できることを目指します。

宗教学

「建学の精神」に基づいて、宗教、特に禅・仏教を学びます。そこには「人間の弱さや愚かさ、強さや素晴らしさ」についての豊かな洞察が含まれています。

授業は、共通のテキストを用いた講義が中心ですが、各担当教員は視聴覚教材を活用するなど、独自の工夫を凝らしています。また、年1、2回「坐禅の体験実習」も行います。

この科目を通して「生きること」「信じること」の意味について考えてみましょう。

○宗教学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので4単位を修得する必要があります。

情報科学

健康に関する情報は日々大量に発信されています。それらの情報から信頼できるものを収集して、統計・分析を行います。そのために必要な基本的技術を学びます。

○情報科学Ⅰは教職必修です。

教養基幹科目

教養基幹科目は人文系・社会系・自然系・主題系^{注)}の各科目からなっています。人文系・社会系・自然系科目では、専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、そして豊かな人間性の育成を目標としています。総合大学としてのメリットを最大限に生かし、幅広い学問領域をカバーする多彩な科目でカリキュラムを構成しています。主題系科目においては、学際的で広い領域の中からテーマを設定し、それぞれの主題について総合的な理解を深めるために複数の教員が担当する授業や、特定のテーマについてより深く掘り下げて学ぶ授業が行われます。

○法学Ⅰ・Ⅱは教職必修です。

注) 2012年度以前入学生については、以下のとおりとします。

教養基幹科目主題系の各科目は、主題科目として開講します。

外国語科目

①第1外国語【英語】

英語は、アメリカ・イギリスなどの英語圏で話されているだけでなく、母語の異なる人たちの間の共通語としても用いられているなど、国際化が進展する今日の社会において、その重要性はますます高まりつつあります。

英語カリキュラムは、現代社会において必要な英語コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としています。

読む・書く・聴く・話すという4技能の養成を図ります。これら4技能をバランスよく習得することは、すべての語学学習にとって必要不可欠です。

○英語は必修科目であり、1年次では英語Ⅰa・Ⅱa・Ⅰb・Ⅱb・Ⅰc・Ⅱcの合計6単位を修得する必要があります。

○各開講年次で修得できなかった者は、時間割表に(未修得者)と表示されている科目の中から履修してください。

○日本語を履修する外国人留学生は必要ありません。

②選択外国語【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】

選択外国語はドイツ語・中国語・フランス語・韓国語が開講されています。国際化が叫ばれる中で、多様な世界を知り、それを理解するためには、英語以外の外国語を学習することも大切です。異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を養うために、選択外国語の学習にも積極的に取り組んでください。

③外国人留学生の外国語 ※履修方法については、P.39を参照してください。

外国人留学生には外国語科目として「日本語」を開講しています。この科目は外国人留学生が、大学の講義を受講するのに必要な日本語能力を養成し、高めることを狙いとしています。

④エレクトティブ(2014年度以降入学生適用)

エレクトティブはコアを学習しながら、あるいはコアを学習した後、さらに各技能のレベルを高めるための科目となっており、豊富な教員を用意し、少人数クラスで多種多様な授業を行います。パソコンや視聴覚機器等を使用した科目も開講しています。

授業科目の概要

教養教育科目(健康科学科)

健康総合科学科目

スポーツ科学では各種スポーツの「実践」により、健康の価値と運動の楽しさを体験的に認識することによって健康の自己管理能力を養い、それぞれ各人の能力にあった運動を生涯スポーツとして確立し、広く社会に貢献しうる人材の育成を目的としています。

○第1週目は授業内容などのガイダンスを行いますので、所定の教室に集合してください。

既往症、現在症などで運動制限をしなければいけない場合	第1週目の授業時に担当教員に必ず申し出る
見学を余儀なくされた場合	担当教員に申し出る (長期に渡る場合は、診断書を提出)
試合などで休む場合	前もって担当教員に申し出る
天候不順の場合	授業変更は体育館事務室前に掲示

○更衣は体育館更衣室で行い、衣服などの荷物を各競技場に持っていき、各自で管理してください。そのため、貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。

海外事情科目

海外の国に実際に足を踏み入れ、今まで学習してきた外国語を実際に試してみることによって、新たな経験を積み、視野を広げることになります。

海外事情科目は、本学が行う「海外語学研修」をその内容としています(詳細については、P.77参照)。

授業科目の概要

教養教育科目(健康栄養学科)

教養教育科目の理念と目標

教養教育では、「学生一人ひとりの人間性を尊重しつつ、豊かな教養と高い品位を兼ね備えた人間の育成を目指す」という理念のもとに、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な価値観と深い洞察力を育成する「リベラル・アーツの修得」を柱として、多彩な科目を開講しています。学生の皆さんが将来豊かな教養を兼ね備えた人材として社会に貢献できることを目指します。

宗教学

「建学の精神」に基づいて、宗教、特に禅・仏教を学びます。そこには「人間の弱さや愚かさ、強さや素晴らしさ」についての豊かな洞察が含まれています。

授業は、共通のテキストを用いた講義が中心ですが、各担当教員は視聴覚教材を活用するなど、独自の工夫を凝らしています。また、年1、2回「坐禅の体験実習」も行います。

この科目を通して「生きること」「信じること」の意味について考えてみましょう。

○宗教学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので4単位を修得する必要があります。

教養基幹科目

教養基幹科目は人文系・社会系・自然系・主題系[※]の各科目からなっています。人文系・社会系・自然系科目では、専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、そして豊かな人間性の育成を目標としています。総合大学としてのメリットを最大限に生かし、幅広い学問領域をカバーする多彩な科目でカリキュラムを構成しています。主題系科目においては、学際的で広い領域の中からテーマを設定し、それぞれの主題について総合的な理解を深めるために複数の教員が担当する授業や、特定のテーマについてより深く掘り下げて学ぶ授業が行われます。

注) 2012年度以前入学生については、以下のとおりとします。

教養基幹科目主題系の各科目は、主題科目として開講します。

外国語科目

①第1外国語[英語]

英語は、アメリカ・イギリスなどの英語圏で話されているだけでなく、母語の異なる人たちの間の共通語としても用いられているなど、国際化が進展する今日の社会において、その重要性はますます高まりつつあります。

英語カリキュラムは、現代社会において必要な英語コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としています。

読む・書く・聴く・話すという4技能の養成を図ります。これら4技能をバランスよく習得することは、すべての語学学習にとって必要不可欠です。

○英語は必修科目であり、1年次では英語Ⅰa・Ⅱa・Ⅰb・Ⅱbの合計4単位を修得する必要があります。

○各開講年次で修得できなかった者は、時間割表に(未修得者)と表示されている科目の中から履修してください。

○日本語を履修する外国人留学生は必要ありません。

②選択外国語[ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語・英語(Ⅰc・Ⅱc)]

選択外国語はドイツ語・中国語・フランス語・韓国語・英語(Ⅰc・Ⅱc)が開講されています。国際化が叫ばれる中で、多様な世界を知り、それを理解するためには、英語以外の外国語を学習することも大切です。異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を養うために、選択外国語の学習にも積極的に取り組んでください。

③外国人留学生の外国語 ※履修方法については、P.57を参照してください。

外国人留学生には外国語科目として「日本語」を開講しています。この科目は外国人留学生が、大学の講義を受講するのに必要な日本語能力を養成し、高めることを狙いとしています。

④エレクトィブ(2012年度以降入学生適用)

エレクトィブはコアを学習しながら、あるいはコアを学習した後、さらに各技能のレベルを高めるための科目となっており、豊富な教員を用意し、少人数クラスで多種多様な授業を行います。パソコンや視聴覚機器等を使用した科目も開講しています。

授業科目の概要

教養教育科目(健康栄養学科)

健康総合科学科目

健康総合科学では各種スポーツの「実践」と「理論」により、健康の価値と運動の楽しさを体験的に認識することによって健康の自己管理能力を養い、それぞれ各人の能力にあった運動を生涯スポーツとして確立し、広く社会に貢献しうる人材の育成を目的としています。スポーツ科学では「実践」により皆さんができるだけスポーツに親しむことを望んでおり、健康総合論では「理論」によって健康に関する諸問題を医学面、あるいは運動面から総合的にアプローチしていきます。

- スポーツ科学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので、2単位を修得しなければいけません。
- 第1週目は授業内容などのガイダンスを行いますので、所定の教室に集合してください。

既往症、現在症などで運動制限をしなければいけない場合	第1週目の授業時に担当教員に必ず申し出る
見学を余儀なくされた場合	担当教員に申し出る (長期に渡る場合は、診断書などを提出)
試合などで休む場合	前もって担当教員に申し出る
天候不順の場合	授業変更は体育館事務室前に掲示

- 更衣は体育館更衣室で行い、衣服などの荷物を各競技場に持っていき、各自で管理してください。そのため、貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。

海外事情科目

海外の国に実際に足を踏み入れ、今まで学習してきた外国語を実際に試してみることによって、新たな経験を積み、視野を広げることになります。

海外事情科目は、本学が行う「海外語学研修」をその内容としています(詳細については、P.77参照)。

授業科目の概要

専門教育科目(心理学科)

(1) 専門教育科目を学ぶにあたり

心理学科の専門教育科目は、1年次から4年次まで、基礎的な科目から総合的な科目へと体系的に学ぶように開講されています。

心身科学部心理学科のカリキュラム概要②専門教育科目(P.84～89参照)を見ていただくとその様子がよく分かります。この一覧表に基づいて、専門教育科目をどのように学んでいくかを簡単に説明していきます。

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目には心理学入門Ⅰ、Ⅱ、心理統計学Ⅰ、Ⅱ、心理学研究法Ⅰ、Ⅱ、の6科目があり、すべて必修科目です。ただし、心理学入門Ⅰ、Ⅱは1年次で、心理統計学Ⅰ、Ⅱは2年次で、心理学研究法Ⅰ、Ⅱは3年次で履修することになっています。

(3) 専門基幹科目

専門基幹科目には、スタートアップ心理学、精神保健学、生理学の他に、認知心理学、行動心理学、発達心理学、教育心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学、産業心理学、計量心理学、宗教心理学、と心理学のほぼ全領域を網羅した講義と演習があり、それぞれa(春学期)、b(秋学期)に分かれて開講されています。

この専門基幹科目から、演習4単位を含む16単位以上を選択し、履修します。ただし、精神保健学と生理学は1年から履修できますが、その他は2年次からの履修となります。また、スタートアップ心理学は1年次のみ履修できます。

(4) 専門展開科目

専門展開科目には、心理学史a、b、スポーツ心理学、心身科学特論の他に、専門基幹科目では詳しく扱えないような特殊なテーマや問題について講義する、特殊講義が1から16まであり、それぞれa、bに分かれています。ただし、16b(インターンシップ)は就職実習の科目で2年次からの履修となりますが、これ以外の科目はすべて、3年次からの履修となります。

ただし、言語聴覚士の受験資格を希望する学生は、言語聴覚士関連科目Aで単位を取得することができます。専門展開科目から、16単位以上を選択し、履修します。

(5) 言語聴覚士関連科目A

言語聴覚士関連科目Aは、言語聴覚士の受験資格を希望する学生のために開講されている科目群のうち心理学に関連の深いもので、健康医学入門から臨床実習まで19科目があります。

この言語聴覚士関連科目Aは一般の学生も卒業要件単位に含めることができますが、言語聴覚士のために体系的に開講されており専門性が高く、中途半端な気持ちで受講しても単位取得はほとんど困難です。選択にあたってはそのことに十分留意してください。

(6) 卒業論文

卒業論文は下記の3・4年次で開講される総合研究演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで指導されます。

しかし、卒業論文の完成には、授業以外での努力がかなり要求されますので、卒業論文には演習の単位とは別に8単位が与えられています。

卒業論文は提出するように指導されますが、卒業論文を提出しない場合は、8単位分の専門教育科目を履修する必要があります。

(7) 実験演習科目

実験演習科目はすべて必修科目です。心理学の科学的研究方法である実験法、調査法、観察法、検査法などを基礎から応用まで具体的に学んでいきます。1年次では基礎実験演習Ⅰ、Ⅱ、2年次では一般実験演習Ⅰ、Ⅱ、3年次では総合研究演習Ⅰ、Ⅱ、4年次では総合研究演習Ⅲ、Ⅳ、と最終的には卒業論文をまとめるところまで、体系的に学習することができます。

なお、卒業論文を提出しない人も、研究の成果をまとめた総合研究演習のレポートは提出することになります。

(8) 言語聴覚士関連科目B

言語聴覚士関連科目Bは言語聴覚士の受験資格を得るための科目群で、解剖学から健康科学総合演習まで31科目があります。言語聴覚士関連科目Bは卒業要件単位には含まれませんので注意してください。

なお、言語聴覚士の受験資格を得ようとする人には、オリエンテーションが特別に行われますので、そこで詳しい説明を受けてください。

授業科目の概要

専門教育科目(健康科学科)

(1) 専門教育科目を学ぶにあたり

21世紀の現在、急速に進む高齢社会とともに、食生活や運動習慣、ストレスなど生活習慣がもたらす糖尿病、高血圧、肥満症などに代表される「生活習慣病」が増加しています。

健康科学科では、「健康」を「心身共に健やかで、社会的にも活力のある状態」ととらえ、身体健康(運動・栄養)や心の問題、社会環境などとの関わりを多面的に、科学的に研究し、健康を予防・治療の両面で生活スタイルや各ライフステージに応じて、適切に指導できる専門家を養成します。医学(臨床・基礎・社会医学)、歯科医学、運動生理学、心理学、言語聴覚学、看護学などをベースに新しい「健康科学」を追究します。

(2) 専門基礎科目

健康医学入門、健康スポーツ医学入門、健康脳科学入門、環境健康医学入門、健康心理学入門、プレセミナーがあり、1年次に開講されています。どの方向に進むにも全て必修です。必ず受講してください。

(3) 専門基幹科目

将来の進路によって異なります。自分の進路をはっきりと決めて受講しましょう。わからない点は、アドバイザーや各専門コースの教員に相談してください。

(4) 専門展開科目

各コースで開講されている科目から、将来の進路に合わせて履修してください。

(健康開発科学コース)

臨床医学(スポーツ医学・内科学・糖尿病学・臨床栄養学・精神医学)・基礎医学(栄養科学・分子生物学・生化学)・社会医学(公衆衛生学・環境医学・疫学)の各分野における最先端の研究情報を積極的に取り入れ、検証と考察を行います。また、個人や集団の健康開発プログラムを作成する実践的なカリキュラムも用意しています。

(スポーツ科学コース)

医学的な知識をベースに、運動が健康管理や健康増進にどのような役割を果たすかを学習。スポーツの指導者となるための専門科目はもとより、高齢者や障害者の運動療法についても深く探究し、健康の保持・増進をサポートする生涯スポーツの指導者を養成します。

(言語聴覚科学コース)

2、3年次に履修する言語聴覚必須科目の大半が該当します。医学、人文系の基礎知識に加え、障害の種類、検査、評価、指導の方法を具体的に学ぶことで、言語聴覚に関する専門的な知識を修得します。原則として必須科目をすべて履修した後、3年次後半から4年次の臨床実習を履修することができます。

(5) 専門選択科目

心身科学特論、介護概論、手話など、健康科学科の学生さんなら勉強しておいてほしい専門科目が用意されています。

(6) 健康科学総合演習、専門セミナー

将来の進路毎に専門の教員が担当する少人数教育です。担当教員はアドバイザーも兼ねます。

(7) 卒業論文

養護教諭、言語聴覚士志望以外の学生さんは卒論作成が必須です。専門セミナーの教員の指導を受け、作成してください。

(8) 看護実習

保健医療施設における病院機能や医療従事者について理解するとともに、患者とのコミュニケーションを通して患者のニーズや患者を取りまく療養環境を理解し、基本的な看護の知識・技術を習得します。養護教諭志望の学生さんは必修です。

(9) 臨床実習

言語聴覚士の受験資格を得るためにこれまで学んだことの総仕上げとなる場です。大学から離れ、他の施設で合計12週間の臨床実習が2、3回に分けて実施されます。実習では日々臨床実習ノートを記載し、最後に症例報告書を完成させます。

(10) 認定心理士資格取得関連科目

基礎科目(心理学概論、心理学研究法、心理学実験・実習)、選択科目(知覚心理学・学習心理学、教育心理学・発達心理学、生理心理学・比較心理学、臨床心理学・人格心理学、教育心理学・発達心理学、社会心理学・産業心理学)など総計36単位の修得後、認定心理士の資格認定が受けられます。

授業科目の概要

専門教育科目(健康栄養学科)

(1)専門教育科目を学ぶにあたり

健康栄養学の学問領域は、健康科学をベースとして栄養科学と食品科学が中核となり、その周辺科学によって構成されています。その学問の基礎となるのが「化学」と「生物学」です。教養教育科目自然系の化学、生物学および管理栄養士関連科目の有機化学、分析化学を履修して専門教育科目を学ぶ基礎力を付けることが必要です。また、栄養士免許を取得するための科目が卒業要件の専門必修科目となっていますので、この基本資格に加えて、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員、食品衛生管理者、NR・サプリメントアドバイザー、健康食品管理士などの資格取得のための専門必修科目および関連する専門選択科目を組み合わせることによって将来の方向を決めていきます。本学科では医療系で活躍できる人材の育成に力を入れたカリキュラム編成をしていますので、健康に関わる幅広い学問領域の科目を履修して、資格取得のみに甘んじることのない真の実力をつけていくことをめざします。

(2)専門基礎科目

健康と栄養に関わるさまざまな課題について科学的に考えるために必要となる知識を修得する基礎科目群です。1・2年次を中心に開講されています。専門領域の概要を説明します。

①社会・環境と健康

人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境と健康との関わりについて理解します。

②人体の構造と機能、疾病の成り立ち

人体の構造や機能を系統的に理解した上で、主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて学びます。また、食事、運動、休養などの基本的な生活活動の機構についても理解を深めます。

③食べ物と健康

食品の各種成分、生育、生産、加工、調理について学び、人体に対する栄養面や安全面への影響や評価について理解します。

(3)専門基幹科目

健康栄養学について専門基礎知識に基づいて具体的な方法と技術を修得する科目群です。3・4年次を中心に開講されています。専門領域ごとの教育目標を説明します。

①基礎栄養学

健康の保持・増進、疾病の予防・治療・予後における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義について学びます。

②応用栄養学

ライフステージにおける身体状況や栄養管理について理解し、リスク管理の基本的な考え方や方法を修得します。

③栄養教育論

対象に応じた総合的な栄養マネジメントができるように、健康・栄養教育の理論と方法を修得します。

④臨床栄養学

傷病者の病態や栄養状態に応じた栄養管理、栄養ケアプラン、総合的な栄養マネジメントの考え方やチーム医療における役割を理解した上で、具体的な栄養管理方法について修得します。

⑤公衆栄養学

地域や職域などにおける保健・医療・福祉・介護システムの中で、適切な栄養関連サービスが提供できる総合的な栄養マネジメントに必要な考え方と方法を修得します。

⑥給食経営管理論

給食経営や経費などの関連資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面などのマネジメントを行う能力を養うとともに、マーケティングの原理やマネジメントの基本的な考え方や方法を修得します。

授業科目の概要

専門教育科目(健康栄養学科)

(4)専門展開科目

専門分野の知識および技術について実践に役立つことをめざした統合をはかるための科目群です。各科目の要点を説明します。

①総合演習

管理栄養士をめざす学生の実力アップをはかる演習科目です。健康栄養学入門は、健康栄養学科の専任教員がそれぞれの専門分野の最先端の話題を解説します。健康管理総合演習は、臨床系医師や管理栄養士の教員による臨床面接試験の演習を行います。管理栄養士総合演習は国家試験対策のための解説と実力試験を行います。

②臨地実習

栄養士、管理栄養士の実務見習いのための学外実習を行います。医療機関を中心として、福祉施設、特定給食施設、小中学校などの実践活動の場において、栄養アセスメント、栄養計画、実施、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識と技能を修得します。

③総合科目

健康栄養学特論は、医療分野で活躍できる専門的能力を深めるために、健康栄養学領域の総合的な実力の向上を目的として、4年次に開講される演習科目です。管理栄養士海外研修は、栄養士誕生の地であるアメリカのRD (Registered Dietician)との交流を通して専門業務の実態を学び、グローバルな視点で食と健康の問題を捉えて思考し、英語でのコミュニケーションの幅を広げるとともに、ホームステイでの異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことを目的とした2週間(演習2単位)の研修です。

健康栄養総合演習および健康栄養専門セミナーは卒業研究を行うためのセミナーであり、2012年度入学生から必修科目となります。

④管理栄養士関連科目

食品衛生監視員、食品衛生管理者、NR・サプリメントアドバイザー、健康食品管理士の資格を取得するために専門基礎科目および専門基幹科目以外に必要な科目群です。

(5)卒業研究

卒業研究は専門領域に関する研究を通して自己実現をはかることを目指していますので、選択科目ですが原則全員履修するようにします。卒業研究では、卒業論文の提出とともに研究成果のプレゼンテーションが課せられ、分析し、考え、表現する能力を育成します。卒業研究担当の教員の指導を受けて、卒業論文を作成します。

(6)栄養教諭科目

栄養教諭一種免許を取得するためには、「学士の資格を有すること」に加えて「管理栄養士養成施設の過程を修了」し、「栄養士の免許」を受けていることが基本資格となっていますので注意してください。